

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	こども哲学 tera-s	
代表者名	加川 康子	
連絡先	TEL : 090-2849-4192 FAX : なし	E-mail yasuko.kagawa@icloud.com

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	障がい者スポーツ『パラキャン』から学ぶ共生社会
事業の目的	これからの社会が目指す「共生社会」は、すべての人々が違いを認め、お互いの存在を受容することが求められているが、多様性を学ぶ体験機会が昨年から減少していた。そこで、大崎市の小学生に障がい者スポーツ（車いすバスケットボール）体験を通して、多様なものの見方で考えるきっかけ作りを行い、「ひとりひとりが大切な存在」であり、すべての人々が自立・自律して生きることを学ぶ機会の提供を行うことを目的として、本事業を実施。
事業の具体的内容	NPO 法人パラキャンを大崎市に呼び、車いすバスケットボール体験イベントを開催。 【NPO 法人パラキャン】障がい者スポーツをモチーフとした教育体験プログラムを企画・運営している団体。学校や自治体等で、障がい者アスリートを講師として開催。活動の一環として訪問授業を行っている。
活動の開始から完了までの流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11:00 スタッフ集合・打ち合わせ ・ 12:00 会場設営 ・ 12:45 受付開始 ・ 13:15-13:30 開会式、説明、保護者とのデモゲーム ・ 13:30-15:00 体験開始（車いすバスケットボール体験、車いすソフトボール体験） ・ 15:00-15:15 質疑応答 ・ 15:15-15:30 写真撮影・閉会 ・ 15:30-16:00 片付け・解散

活動の成果と教訓	<p><活動の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生 32 名および保護者が参加。パラキャンから 7 名のスタッフが参加。 ・短時間ではあるが、保護者も車いすバスケットボール体験の機会を設け、障がい者スポーツを体感いただく。 ・1 チーム 4 名、8 チームによる試合を行い、車いすバスケットボールを体験。 ・車いすソフトボール体験も行い、車いすに乗ってバットを振る、守備を行うといった体験を実施。 ・参加者から講師への質疑応答では、「どうして車いすに乗っているの?」という率直な質問があり、講師から「病気で足を切断したが、車いすがないと歩きにくい。車いすに乗っているのは、歩くのが楽だから。視力が弱くなったら眼鏡をかけるのと同じ」という回答があり、車いすに乗ることが特別なことではないというメッセージが伝えられた。 ・最後に、パラキャンの事務局長より「できないことを数えるよりも、できることを数えよう」というメッセージのプレゼントがあり、参加した子どもたちに加え、見学していた保護者にもメッセージが伝わった様子であった。 <p><教訓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでも多く車いすに触れる時間を取りたいという思いから、開会を待つ間、先着順で車いす体験を始めてしまい、不公平感をもつ参加者が出てしまった。 ・体験時間が長引き、予定時間を 30 分近くオーバーしてしまった。
今後の展望など	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して学ぶ機会は現在も少ない状況であるため、障がい者スポーツに限らず、多様な視点をもつきっかけを提供できるよう、学校以外での体験学習の場を作っていきたいと考えています。 ・今回の障がい者スポーツ体験を哲学対話のテーマとして考える時間を設けたいと考えています。 ・また参加したい、といった感想が多いため、次年度以降も開催できるよう開催方法等を検討してまいります。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	100,000	
協賛企業寄付金	50,000	株式会社プロスパイン
参加費	9,600	イベント保険加入料として 300 円×32 名分
合計	159,600	

■ 支出の部 ※助成金充当項目

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
講師料 ※	NPO 法人パラキャンへの講師料	80,000	80,100
会場使用料	アリーナ使用料・放送器具等レンタル代金	20,000	11,880
レジャー保険	参加者・保護者・講師・運営スタッフのレジャー保険	10,000	9,720
印刷代 ※	チラシ・ポスター	10,000	16,855
発送費 ※	市内放課後児童クラブ等へのチラシ発送、報告書発送	3,000	3,000
消耗品 ※	封筒、クリアホルダー、アルコールスプレー等	10,000	5,226
スタッフ・講師昼食代	お弁当・お茶	9,000	20,882
講師・協賛者御礼品	講師・協賛者への御礼品購入・発送費用	8,000	7,444
合計		150,000	155,107

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

- ① 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。
- ② 領収書のコピー (郵送)
- ③ 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)
*写真は郵送とメールで送ってください。



講師の自己紹介



保護者も車いすバスケットを体験



試合形式による車いすバスケット体験



初めての体験に歓声があがった



座ったままボールを投げる体験は初めて



真剣に、楽しく体験する時間



車いすソフト体験も実施



座ったままボールを打つ体験も初めて



最後に記念撮影

昭和22年5月12日第三種郵便物認可

小学生車いすバスケット体験 古川 ゴール決め大きな歓声

小学3～6年生を対 日、大崎市古川総合体
象にした車いすバスケ 育館で開かれた。市内
ットボール体験会が3 を中心に約30人が参加



車いすバスケットボールを体験する子どもたち

し、バラスポーツの魅
力を学んだ。

コロナ禍で学校行事
や地域イベントが減少
していることを受け、
多様な学びの機会を提
供したいと、大崎市古
川でこども哲学教室を
開いている「こども哲
学terrais」(加
川康子代表)が主催。

SDGsをおおききやブ
ロスバインなどが協力
した。講師は、バラス
ポーツをモチーフにし
た教育、体験プログラ
ムを企画運営するNP
O法人「バラキャン」
のバラアスリートが務
めた。

子どもたちは、車い
すの基本的な操作や車
いすバスケットボール
のルールを習った後、

試合に挑戦。方向転換
やスピードを出す操作
に苦戦しながら、バス
やゴールが決まると天
きな歓声を上げて喜ん
だ。

大崎市古川第三小4
年の伊藤心陽さん(10)
は「目線の低さに驚い
た。車いすに乗って素
早く動いたり、シュー
トを放ったりすること
が難しかった」と話し
ていた。

古川、古川南8強
県中学新人サッカー
第38回県中学校サッ
カー新人大会が6、7
の両日、みやぎ生協め
ぐみ野サッカー場(利
府町)などであり、古
川(大崎市)と古川南
(同)がベスト8入り
した。優勝は東北学院。
結果は次の通り。

古川南 4-1-3 勝